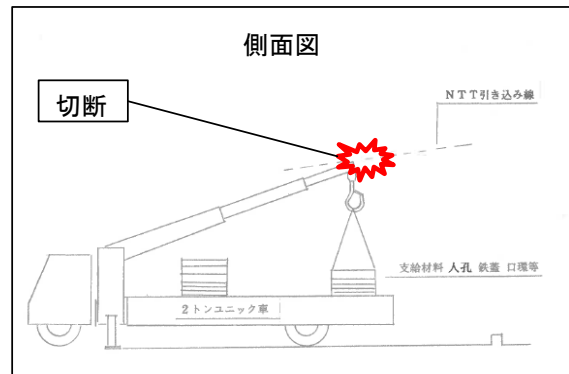
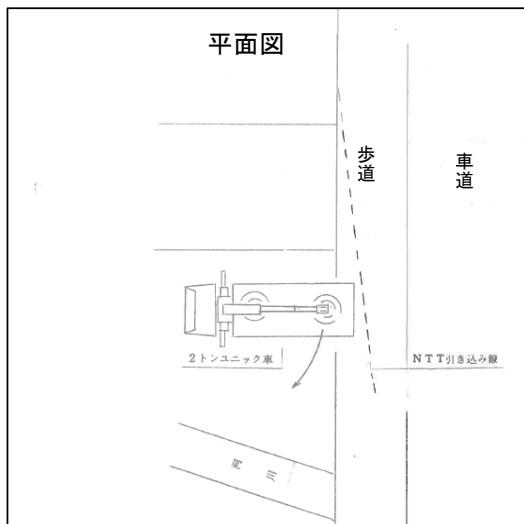


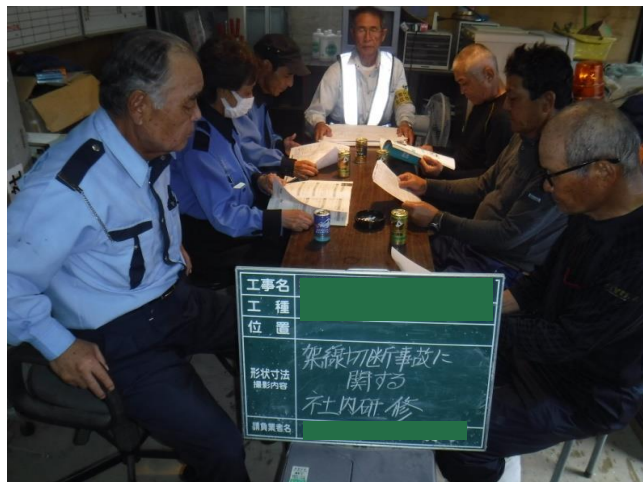
# 公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成 31年 4月 5日(金曜日) 14時 00分			工事関係者区分	元請け
事故区分	空線・信号等損	性別	—	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	架空線切断			事故レベル	I	休業見込日数	—
工事概要	歩道段差解消						
事故概要	ユニック車にて資材(汚水 樹鉄蓋枠)を吊り上げた際、クレーンのブームによりNTT架空線を切断させたもの。						
事故原因	ユニック車による資材の積み下ろし作業の際、合図誘導者を配置して作業を行っていたが、事故発生時、合図誘導者が歩行者の誘導のため現場を離れたときにユニック車の運転者がクレーンを操作したため。						
改善策	安全研修を実施し、合図誘導者の誘導なしでのクレーン操作を行わせないこと、また、架空線等上空施設については、施工に先立ち位置等を確認するよう周知徹底致した。						

## 事故状況図



## 改善状況図



# 公共工事等事故情報

事故分類	労働災害	発生日時	平成31年 4月15日(月曜日)11時00分			工事関係者区分	元請け
事故区分	挟まれ・巻き込まれ	性別	男性	年齢	38	業種区分	設備
被災程度	左手薬指先の骨折			事故レベル	I	休業見込日数	0
工事概要	破砕選別設備及びその付属プラント設備運転業務, ごみ受入監視業務						
事故概要	プラットホームでの受入監視中, 自己搬入車両の荷台からごみを降ろす際に荷崩れが起き, ごみを降ろす作業を手伝っていた受入監視員(被災者)の左手薬指先が挟まれて受傷(骨折)したものの。						
事故原因	受入監視員は, 原則としてごみの荷降ろし作業には協力しないこととしているが, 重めの荷だったので, 協力したこと。また, 荷崩れに対する注意が不十分であった。						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己搬入者の荷降ろし作業への協力は, 原則行わない。</li> <li>やむを得ず協力する場合は, 複数人数で安全を確認したうえで行う。</li> <li>作業標準書を改定し全作業員に徹底する。</li> </ul>						

## 事故状況図



イメージ写真

## 改善状況図

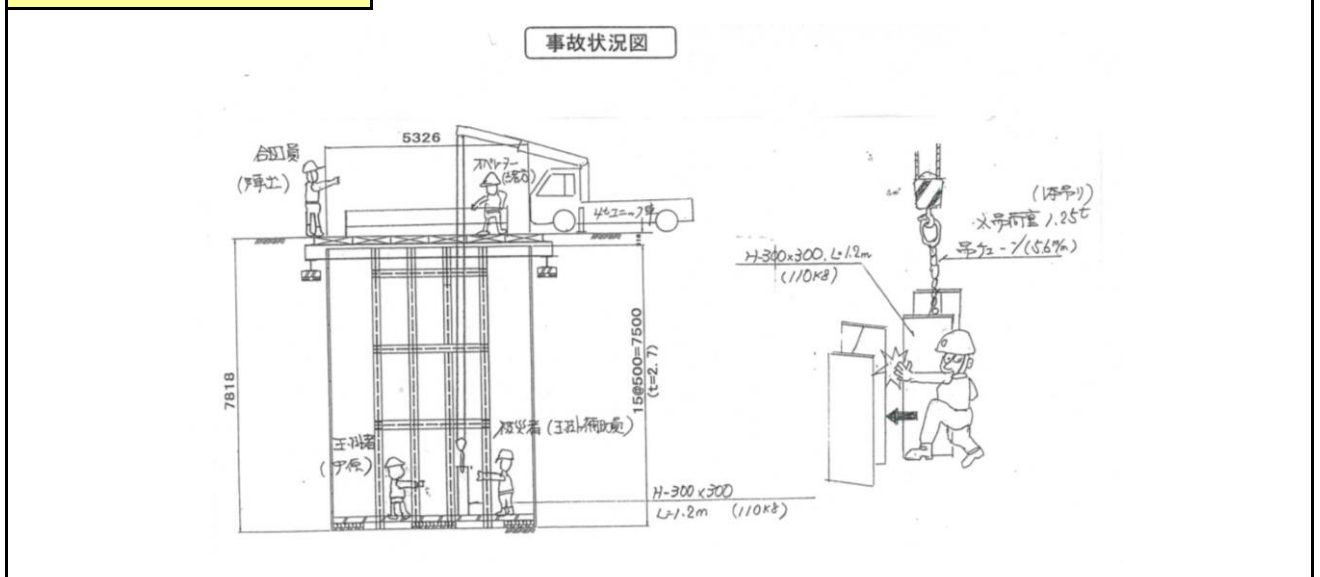


安全ミーティング

# 公共工事等事故情報

事故分類	労働災害	発生日時	平成31年 4月24日(水曜日) 16時10分			工事関係者区分	二次下請
事故区分	まれ・巻き込ま	性別	男性	年齢	24	業種区分	土木
被災程度	左手薬指先の骨折(完治まで1ヶ月程度)			事故レベル	I	休業見込日数	0
工事概要	未整備解消のための下水道管新設工事						
事故概要	両発進立坑内で推進設備の方向転換作業中、支圧壁用のH鋼(300×300, L=1.2m)1本を吊上げ手を添えていたところ、荷が振れた際に並べていたH鋼との間に左手薬指先を挟まれ受傷した。						
事故原因	被災者がクレーンオペレーターに声掛けにより吊り上げの合図をしたとき吊荷に手を添えていたこと、また、吊荷近傍に被災者がいたにもかかわらずクレーンオペレーターが吊り上げ作業を開始したことにより事故が発生したものであり、吊荷作業時の安全管理が原因である。						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>クレーンによる吊荷作業においては、必ず合図者を配置してその指示に従いクレーン操作を行う。また、吊荷近傍から作業員を退避させる等、安全な作業手順に従い作業を行うよう指導・徹底する。</li> <li>作業開始前のKY活動を徹底し、慣れ等による不安全行為を撲滅するよう作業員全員の意識の高揚を図る。</li> </ul>						

## 事故状況図



## 改善状況図

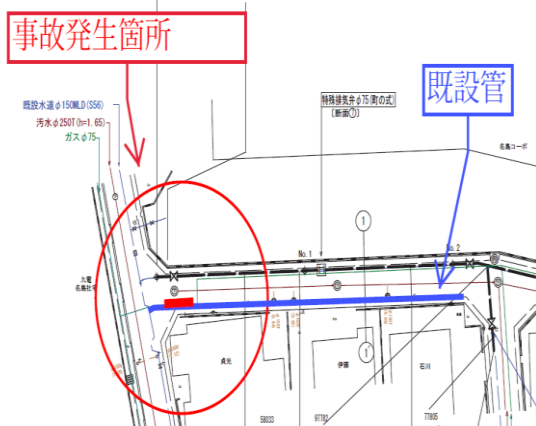




# 公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成31年4月27日(土曜日)10時00分			工事関係者区分	一次下請
事故区分	埋設物等損傷	性別	—	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	ガス管(φ50mm)を破損			事故レベル	I	休業見込日数	—
工事概要	配水管布設工事						
事故概要	既設管撤去のための掘削作業中、バックホウによりガス管(φ50mm)を破損したもの。						
事故原因	事前にガス会社との協議及び現地立会を行い、さらに一部試掘をしてガス管の位置を確認していたが、事故発生箇所では事前協議と異なっており、撤去予定の水道管に近傍してガス管があったこと、また、ガス管が急に立ち上がりあり、敷設されていた標識テープからこの状況が把握できなかったことからガス管を破損させたものである。						
改善策	安全訓練を行い、再発防止として下記のことを実施する。 ・地下埋設物のマーキング箇所の入念な確認を行う。 ・地下埋設物付近を掘削する際は、人力にて慎重に掘削し、埋設物の一部だけでなく全部の確認を行う。						

## 事故状況図



## 改善状況図



再発防止に向けた安全訓練を実施